sento&
neighborhood
journal

HOSENYU

せんとうとまち新聞

北区の
記憶あつめ編
Vol.21
宝泉湯

About

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとうとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全22軒（令和7年現在）をめぐります。
銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有してくことで、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS　宝泉湯紹介／記憶地図／住民かく語りき

銭湯でのふれあいと店主の気遣いが生み出す唯一無二の〝癒しの空間〟

両親の後を継ぎ公務員を経て銭湯店主に

東京メトロ南北線王子神谷駅から徒歩5分のところにある「宝泉湯」。3代目店主の石田喜代志さんによると「新潟県出身の祖父と富山県出身の祖母が台東区根岸と練馬区大泉学園で銭湯を営んでいたが、戦後、『第二宝泉湯』という屋号で1955年頃にこの地で開業したのが始まり。その後、父が経営を任されることになり、今ではうちも根岸の本家も『宝泉湯』という屋号で銭湯を営んでいる」という。今は上層階がマンションになっているが、かつては宮造り建築だったそうで、「40年くらい前は住み込みで働いている家族や女中さんなど働き手が5、6人いた。ベビーベッドなどもあって、いつも混み合っていた」という。また「当時は男湯と女湯の間に立派な中庭と池があり、鯉が悠々と泳いでいた」とも。

その後、1972年に火事に遭って1回目の建て替えを行い、1993年にマンションを併設するために2回目の建て替えを実施したという。

2回目の建て替え時。後ろに鶴のタイル絵が見える。

現在、宝泉湯は喜代志さんと妻の純子さんが夫婦で切り盛りしているが、二人はもともと小石川高校（文京区）の同級生で、1983年に結婚した。妻の純子さんは「学生の頃はまさか銭湯に嫁ぐことになるとは思っていなかった」というが、実は喜代志さんも銭湯を継ぐつもりはなく、公務員として働いていたという。だが「父が亡くなったタイミングで意を決し、銭湯を継ぐことにした」と振り返る。

外気が心地よい、現在の露天風呂と打たせ湯。

先代譲りの気遣いと密なコミュニケーション

かつてはほぼ年中無休で、夜も遅くまで営業していた宝泉湯だが、喜代志さんが店主になってからは無理なく営業を続けるために、営業時間を16時～22時30分に変更したり、店休日を増やしたりしてきた。と同時に、純子さんはお客への気遣いに磨きをかけ、常連の名前や連絡先、誕生日はできるだけ把握してなるべく寄り添うようにしているという。「うちが営業できない時や『最近あまり顔を見ないな』と思ったら連絡するようにしている。この地域は単身の高齢者が多いし、こういった連絡がある種の見守り機能になっていると思う」と優しく話す。ちなみに、こうした気遣いは先代譲りのようで「義母は常連さんにとことん信頼されていて、家や自転車のカギを預かるだけでなく、通帳の管理を頼まれることまであった」「時には『お酒を飲みすぎるんじゃないよ』と、代わりに積み立て貯金までしてあげていた」と懐かしむ。

そんな宝泉湯の洗い場はゆったりとした造りになっていて、ジェット、バイブラ、電気風呂、水風呂、露天風呂といった具合に浴槽の種類が豊富。サウナも人気で、室内では稀代のジャズピアニストであるビル・エヴァンスやキース・ジャレットの音楽が流れ、心身ともにリラックスすることができる。選曲は喜代志さんの趣味で、曰く「仕事をしたり、読書をしたりする時によく聴いていた演奏をチョイスしている。お客さんたちも癒されると思う」と微笑む。

広々としたロビーも宝泉湯の特徴の一つで、地域のふれあいの場としても重要な役割をはたしている。「ロビーではお客さん同士はもちろん、私たちも一緒になっておしゃべりを楽しんでいる。肉体的にはハードな仕事だが、接客は心底楽しい」と純子さんは笑う。時にはフロントの前におしゃべりのための列ができることもあるほどだ。こうした〝癒しの空間〟を求めて、宝泉湯には高齢の常連だけでなく、仕事帰りに立ち寄るお客も多いとか。きめ細やかな気遣いが唯一無二の居心地の良さを生み出しているようだ。

ゆったりとしたロビーは憩いの場となっている。

せんとう情報　SENTO DATA

宝泉湯

宝泉湯 東京都北区豊島8-23-5　東京メトロ南北線「王子神谷駅」から徒歩5分
16:00-22:30 定休日：水曜 月1回連休あり（水曜・木曜）

フロント 露天風呂 サウナ 水風呂 ランドリー

Photo / Mari Okamoto

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

宝泉湯

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう！

◎現在も営業中　●閉店

宝泉湯

神谷橋庚申通り商店会から少し入ったところにある銭湯。
右の写真はかつて宮造り建築だった頃のもので、洗い場の向こうに男湯と女湯の間にあったという中庭が確認できる。池もあり、立派な鯉が泳いでいたとのこと。

豊島馬場遺跡公園

この辺りにはもともと「日本フエルト」の大きな工場があった。また、周辺には工事の飯場（宿舎）もたくさんあり、そこに住む人々が宝泉湯にもたくさん入りに来ていたそう。
その後、日本フエルトが移転し集合住宅が建設される過程で方形周溝墓群が発見され、現在は工場跡地の一部が「豊島馬場遺跡公園」となっている。100基以上もの古墳時代前期の方形周溝墓があるそう。

提供：北区立中央図書館

コーシン映画劇場

神谷橋庚申通り商店会の少し奥まったところにあった映画館。宝泉湯の店主や常連も小さい頃にここで映画を観た思い出があるとか。子どものお小遣いでも観ることができ、日曜日の朝は映画館に並んだそう。「ゴジラ」や「月光仮面」などの名前が上がった。

藤村（駄菓子屋）

宝泉湯からも近く、神谷橋庚申通り商店会沿いにあった駄菓子屋。この辺りの地域では生地にあんこを詰めて円盤状に焼いたものを「太鼓焼き」と呼び、おやつによく食べていたとのこと。

松の家

1922年（大正11年）創業の蕎麦屋「松の家」。
この辺りの土地は昔から馬場という地名で、その名前を残したいという想いで「馬場そば」と名乗っているそう。素材にこだわり、バラエティ豊かなメニューを楽しめる。

荒川
下川造船所
王子神谷駅
カメラ
そろばん
医院
日本特殊塗料
独身寮
経木屋
かしうら
モータース
洋服屋
床屋
酒屋
お茶屋
光山タバコ
成徳大学中学校・高等学校
成徳幼稚園
呉服屋
歯科医院
歯科医院
靴屋
薬局
兜屋
鉄工所
428 COFFEE SHOP
時計屋
うどん屋
理髪店
クリーニング
ぼった屋
神谷橋庚申通り商店会
三沢屋（酒屋）
八百屋
八百屋
越後屋（豆腐屋）
パン屋
白沢米屋
乾物屋
米屋
伊藤ベーカリー
中村屋
あじさだ
八百屋
みよし
東京練炭株式会社

住民かく語り

宝泉湯周辺

わたしのせんとうとまち

―北区の記憶あつめVol.21　宝泉湯―

12月4日、記憶集めトークイベントが実施された。これは宝泉湯周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていこうというものだ。常連をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。

まずは今でこそ個人店が少なくなってしまった近所の神谷橋庚申通り商店会に関して。かつては約130店舗が軒を連ね、飲食店はもちろん、食品から衣料品まであらゆるものが揃う商店街だったとか。映画館まであったそうで「子どもの頃に『月光仮面』を観に行っていた」といった思い出話も飛び出した。界隈の路地裏は子どもたちの社交場で、駄菓子屋もそこかしこにあったそうで、店先の七輪で「ぼった」（具材がシンプルなもんじゃ焼き）を焼き、和気あいあいと食べていたという。また「1964年の東京オリンピックの前までは近くに練炭工場があり、荷を運ぶための馬や牛が飼育され、行き交う様子があった」といった声も上がった。

今回は宮造り建築時代の宝泉湯に通っていたという参加者もいて、「風呂場の真ん中にあった庭と池、そして大きな岩が印象的で、よく池に手を突っ込んで鯉を触ったりしていた」「風呂で潜って、浴槽の下にある四角い穴をくぐるのが楽しかった」といった声も寄せられた。当時の子どもたちにとって、宝泉湯は最高の遊び場だったようで、なかには「15時から21時までいたこともある」という猛者もいた。そして、口々に「今も銭湯があるおかげで、コミュニティが生きている」「銭湯通いを通じて、新たな友だちができた」と宝泉湯への感謝の気持ちを述べていた。

今回は常連の皆さんの話題が尽きず、本文や地図から溢れんばかりの情報が集まった。今回で『せんとうとまち新聞 北区の記憶集め編』は最終回となるが、機会があればまた違う地域、銭湯で貴重な思い出を募りたい。

Photo / Mari Okamoto

COMMENT

安全・安心な銭湯で会話を楽しんでほしい

―石田喜代志さん（宝泉湯 3代目店主）

銭湯で生まれ育ったので、昔から商店会の皆さんには「宝泉湯の子」としてかわいがってもらっていました。往時の商店街のにぎわいはすさまじく、歳末の特売日なんかは買い物客でごった返す繁盛ぶりでした。今は時代の変化や15年ほど前にできた大型スーパーマーケットの台頭で店舗数が激減、だいぶ閑散とした雰囲気になってしまいました。それでも町会のお祭りなどは続いていて、その時に配布される入浴券をきっかけに個別で来てくれる子どもなんかもいてうれしいですね。近隣の幼稚園もお泊まり保育で利用してくれたりします。

最近は高齢の常連さんが増えています。多くの方が単身での入浴を不安視していて、銭湯での入浴は安全・安心なので、はるばる足立区や荒川区からバスや自転車で来てくれる方もいます。実際、うちの風呂場で体調を崩し、ほかのお客さんの助けで、事なきを得たという方もいらっしゃいました。また、いろんな人たちとふれあい、楽しい会話ができるのも一人暮らしの高齢者にとっては、とても良い刺激になると思います。

もっとも、お客さんとの会話は私たちにとっても最高の楽しみの一つです。ほぼ毎日来てくれていたタクシーの運転手さんにはいつもおいしい飲食店のことを教えてもらっていたので、しょっちゅう店選びの参考にさせてもらっていました。これほど楽しい仕事はないので、夫婦で元気でいられるうちは続けていきたいですね。

発行：一般社団法人 せんとうとまち

制作統括：一般社団法人 せんとうとまち 栗生はるか　事務局：渡邊勢士　編集・執筆：熊本鷹一　グラフィック：株式会社 PIN DESIGN 菅原悠介／岡本茉莉　映像：Keystone film 鶴若仰太
協力：東京都北区浴場組合
北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」（担当：北区政策経営部シティブランディング戦略課）にて制作。

一般社団法人せんとうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。

活動支援の協賛・寄付を募集しています
https://bio.site/sentotomachi